

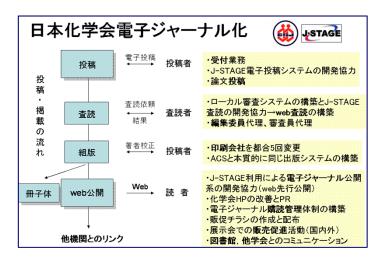
「グリーンコンテンツの拡大のために我々はなにをすべきか?」

初出:第1回国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会 (内閣府) 2014年12月9日(火)

# 電子化実践、事業化から、調査・政策研究へ with Science & IT 1994-2014+

国産電子ジャーナルの 地位確立

電子ジャーナルの未来



学会 大学図書館、 出版社の将来

電子ジャーナルの先の 学術コミュニケーション

研究評価と政策 (大学、URA)

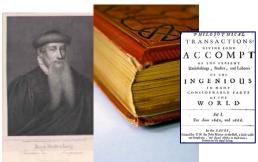
## 歴史に習えば



Web native dissemination

## ・ポストグーテンベルグの過渡期に居る我々

Print based dissemination











▶ research map





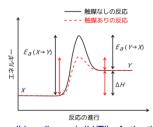
Letter based dissemination



Past Design



**Transition State** 

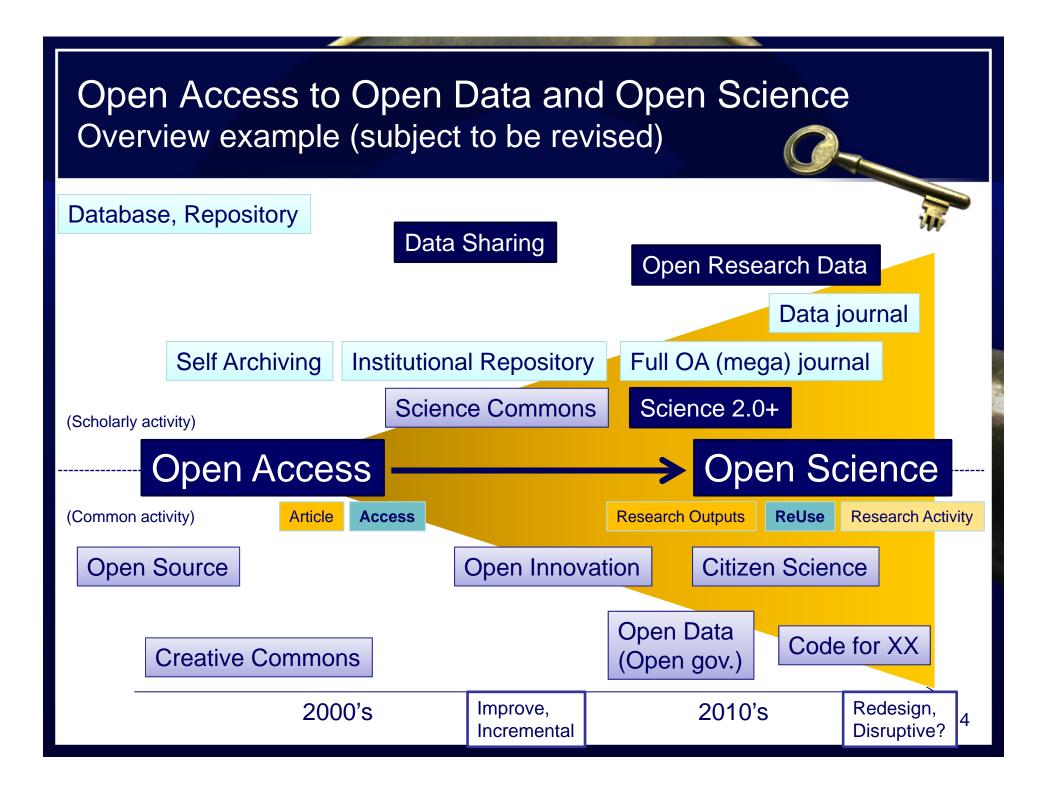


http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Activation\_energy\_ja.svg

#### **Future Design**



#### 学術情報流通の再発明



## 第4期科学基本計画(2011-2015)



「国は、大学や公的研究機関における機 関リポジトリの構築を推進し、論文、観 測、実験データ等の教育研究成果の電子 化による体系的収集、保存やオープンア クセスを促進する。また、学協会が刊行 する論文誌の電子化、国立国会図書館や 大学図書館が保有する人文社会科学も含 めた文献、資料の電子化及びオープンア クセスを推進する。」

## 何故今研究データ?



#### 2013年からの急速な展開

- **G8** 
  - オープンデータ憲章(ただしOpen Gov. Data) (2013年6月)
- · G8 科学大臣会合
  - オープンリサーチデータ (2013年6月)
- GRC (Global Research Council)
  - オープンアクセスアクションプラン(2013年5月)
- ·(日本でも)STS
  - 「第5回EU・日本科学政策フォーラムーサイエンス2.0: 変革する科学」(2014年10月)

## OAの潜在的便益(政策的観点)



- ・研究を加速し成果を見つけやすくすること で<u>研究開発投資の費用対効果</u>を上げる
- ・同じ研究を繰り返すこと避け、研究開発コストを抑える
- ・境界領域や多領域にまたがる研究の機会 を増やし、<u>多分野の協調</u>を促す
- ・研究結果の商業化を早く広い観点から行い、公共研究開発投資の効果を上げ、科学情報を基にした<u>新しい産業</u>を生み出す



Fact sheet: Open Access in Horizon 2020

## 公的資金の費用対効果(Impact)



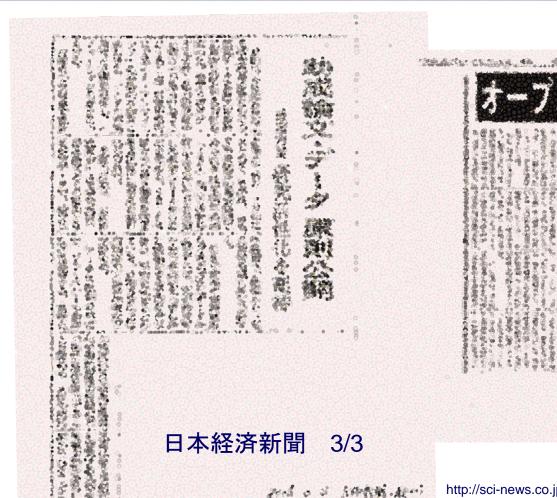
- ·学術·科学的効果、教育効果
- ・経済的(波及)効果、産業振興
- · 社会的(波及)効果、教育効果
- (EU) Horizon2020:
- (US) OSTP, NSF: Broader Impact, "Research Products"
- (UK) REF2014: Impactを評価に(20%, 研究成果65%)

### 科学技術外交としてのOA



- ・何をオープンにし、何をクローズして国益を守るか
  - 公的資金で得た研究成果をすべて一律にオープンに するのは暴論
    - ・知財を守るためのOA政策(逆説的)
  - すべての分野、研究者が一律なOA化で劇的な便益 を得るわけではない
    - ・既存の強みはむしろそのまま生かす方向
    - (自由貿易と保護貿易の観点)
- ・論文生産量(=研究力の一つの指標)の透明性の確保
  - 国際競争力の評価において不利にならないように

## 国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会 (内閣府)

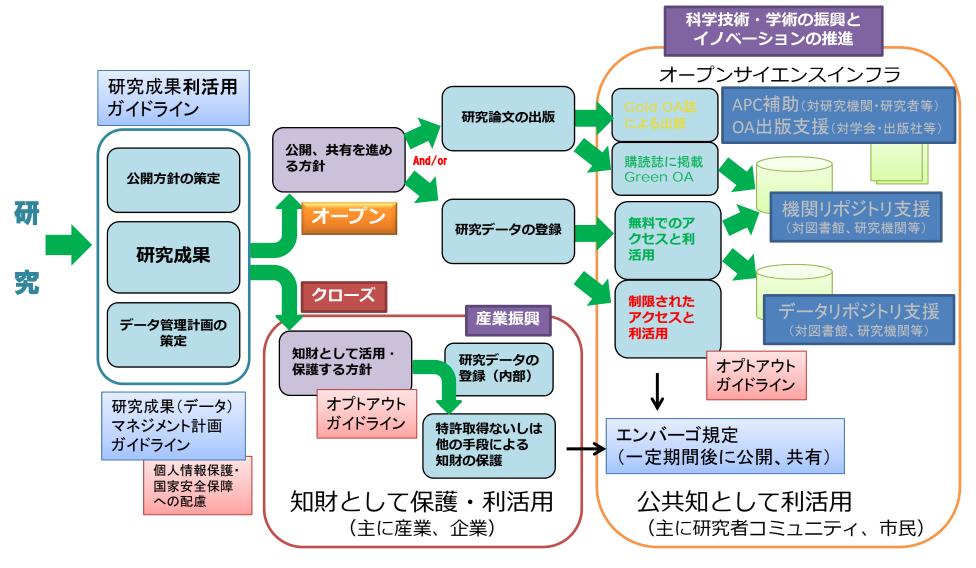




科学新聞 3/6

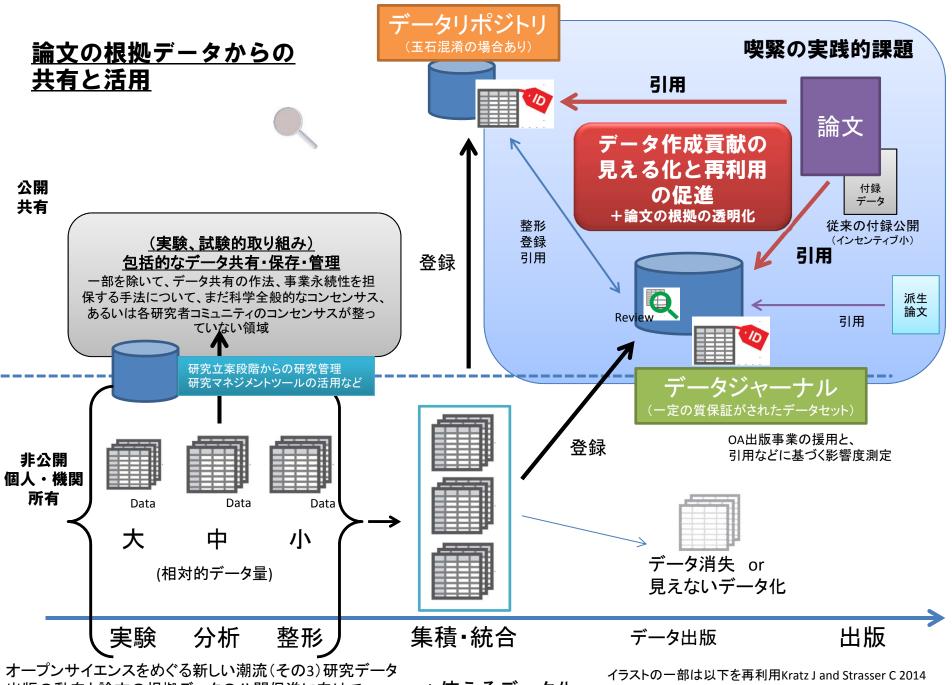
http://sci-news.co.jp/news/オープンサイエンス実現へ 論文と研究データは/

#### オールサイエンス オープンサイエンスポリシーマップ



下記図表を参考に和訳、改変

Guidelines on Open Access to Scientific Publications and Research Data in Horizon 2020 Version 1.0 11 December 2013 p.4 http://ec.europa.eu/research/participants/data/ref/h2020/grants\_manual/hi/oa\_pilot/h2020-hi-oa-pilot-guide\_en.pdf



オープンサイエンスをめぐる新しい潮流(その3)研究データ 出版の動向と論文の根拠データの公開促進に向けて http://data.nistep.go.jp/dspace/handle/11035/1144

→使えるデータ化

イラストの一部は以下を再利用Kratz J and Strasser C 2014 [v2; ref status: indexed, http://f1000r.es/3hi] F1000Research 2014, 3:94 (doi: 10.12688/f1000research.3979.2)